榛名神社社報

発行日　平成十二年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話〇二七二(22)二六五五
発行人　金子浩隆

榛名神社御祭神

一、御祭神　三柱一座
埴山姫命（榛名大神）―五穀豊穣―
倭建命（武尊大神）―土地守護―
菅原道真命（天満大神）―学問守護―
建御名方命（諏訪大神）―開運安産―

一、摂社神　大国主神―良縁・商売繁盛―

武尊大神・菅原大明神）・天満大神（薄根大明神）・榛名大神（榛名大権現）の三大神を一社に奉祀し、顕泰は、御社殿を建立し、一八一五年、真田信幸公が改築をして、今日に至っております。

しかし、それより昭和三年（一二九〇）に奉納された梵鐘に、白根根春名権現の名が見えるのは、必ずしも顕泰の時に榛名名の名が始まったとは限らないといえます。

榛名神満行大権現として一帯の総鎮守と称えられましたが、明治二年、榛名大神と改めました。明治五年、氏子分離の諏訪が分離し、群馬県の諭示により、上之町・中町・下之町・坊新田町・鍛冶町・馬喰町は、須賀神社の氏子に改め、現在に至っております。

以後、明治六年郷社に定められ昭和三年に縣社に昇格されましたが、昭和二十一年宗教法人となりました。

また、諏訪大神は、古来、瀧柵（今の上町）に鎮座され、寛政年間に榛名神社の西に遷座されましたが、明治四十一年、合祀されました。（御社殿は上久屋神社の御社殿となった）

社頭講話

日本人の霊魂観

当社は、沼田氏・真田氏、本多氏・土岐氏と代々城主の尊崇を受け、数々のご奉納の記録があります。現在も、本殿御扉に上に真田家の紋であります六文銭がはっきりと描かれています。また、老中をなった本多伯耆守正永公御奉建の鳥居も現存しています。

発行日　平成十二年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話〇二七二(22)二六五五
発行人　金子浩隆

当社は、沼田氏・真田氏・土岐氏と代々城主の尊崇を受け、数々のご奉納の記録があります。現在も、本殿御扉の上に真田家の紋であります六文銭がはっきりと描かれています。また、老中をなった本多伯耆守正永公御奉建の鳥居も現存しています。

平成11年7月24日、榛名神社誓宮司、金子安平が帰幽亨年89才でした。はやいもので1年が経ちますが、その間の皆様方からのお励まし、お言葉、あらためて心より御礼申し上げます。

ところで、人は亡くなれば、その肉体は滅びてしまいますが、では魂はどうなるのでしょうか？日本人は昔からその行方に思いを巡らしてきましたが、少なくとも言えることは、その魂はこの土地にとどまり、愛しい人や子孫とともに生き、その幸せを見守ってくれると信じてきたことです。そしてこの信仰が今でも我々の行事として残っている所もあります。

そしてもちろんご先祖様は、やがて修行を重ねられ、神様として私達を守ってくださるのです。

日本にはたくさんの年中行事がありますが、その中にも祖先の霊を親しくおまつりする特別な日が少なくありません。

「盆と正月がいっしょに来たみたいだ」

うれしいことが重なったときなどに使う言葉です。

お正月は、日本人が一番日本人らしいことを意識するときかもしれません。と同時に一番身近な年中行事です。正月には門松を飾り、鏡餅を供えて、仏様に対し気持ちを迎えるための物ので、依り代と考えられています。

年神様はご先祖様の霊とも考えられています。

しかし、それより昭和三年（一二九〇）に奉納された梵鐘に、白根根春名権現の名が見えるのは、必ずしも顕泰の時に榛名名の名が始まったとは限らないといえます。

榛名神満行大権現として一帯の総鎮守と称えられましたが、明治二年、榛名大神と改めました。明治五年、氏子分離の諏訪が分離し、群馬県の諭示により、上之町・中町・下之町・坊新田町・鍛冶町・馬喰町は、須賀神社の氏子に改め、現在に至っております。

以後、明治六年郷社に定められ昭和三年に縣社に昇格されましたが、昭和二十一年宗教法人となりました。

また、諏訪大神は、古来、瀧柵（今の上町）に鎮座され、寛政年間に榛名神社の西に遷座されましたが、明治四十一年、合祀されました。（御社殿は上久屋神社の御社殿となった）

「暑さ寒さも彼岸まで」

言葉通り、季節の変わり目であると同時に、これもまた祖先を崇める大切な行事であります。

お盆が祖霊を家に迎えるのとは違って、お彼岸は墓詣りをして、祖先に会いに行く行事としての色彩が濃いようです。

え？ご先祖様はいつも近くにいるんでしょう？どうしてお墓に会いに行くのでしょうか？と疑問に思う方がいるでしょう。魂には和魂と荒魂があって、お墓には荒魂があると言います。ふだんはあまりにいてくださるのは和魂で、お盆にはいつもはお墓にいる荒魂を家にお迎えする必要があるということです。

彼岸のなかで、春分・秋分の日はいずれも国民の祝日です。春分の日は春季皇霊祭、秋分の日は秋季皇霊祭の日は「祖先を敬い、生物をいつくむ」秋分の日は「祖先を敬い、亡くなった人々を偲ぶ」とされています。

まずは、かつては春季皇霊祭・秋季皇霊祭と言っていました。今でも宮内庁は歴代天皇皇族の御霊がおまつりされます。

天文学的に見ても太陽が真東から昇り真西に沈むことから、祖先との交流の日と考えられてきたのでしょう。お彼岸も教会に出席する行事と考えられていますが、これも日本にしかない行事です。豊作に欠かすことの出来ないお祭りの一つです。

お彼岸は、祖霊の加護を祈る古くからの儀礼とむすびついたものと言われています。また、おさがりとして「お彼岸に「ぼたもち」を頂きます。いずれも同じものですが春の牡丹、秋の萩と季節の花にたとえて呼ぶところに日本人らしい美性がうかがえます。

神葬祭について

現在、日本では葬儀の多くが仏式で営まれますが、もともと仏教伝来以前には、我が国固有の信仰―神社に基づく儀礼が行われていました。神道という言葉は、中国に初めて接ぎ、もともともので、伝来してから日本古来の信仰や伝習に神の道という言葉が結びつけられて、ようやく神道という言葉が使われるようになりました。

今のようにお葬儀に仏教色が強いのは、江戸時代の寺請制度の実施施の為とされています。一般庶民を檀家としたために、仏式で葬儀をおこなうようになったのです。こうした中日本古来の葬儀のあり方を見直す動きが起こり、明治以降神道式による葬儀・神葬祭が認められるようになりました。今日では、わかりやすくしかも簡素ということで、神葬祭に変えるる人も増えてきているようです。

故　榛名神社名誉宮司　金子安平前命は平成12年7月20日が、一年祭です。五十日がけがすぎ魂様の神間と家としての修業が続き、一年祭を迎えれば穢れが祓われ、一年祭で祭司としてのお役目がつとめられたことになります。

ただいた、生前親しくおつきあいをしていただいた人々により、益々パワーアップされた榛名神社に関心を向けられる人々が増えることでしょう。

そして、生涯を捧げ守り続けられた榛名神社に関心を向けられる人々に幸福をもたらす神様となられたことでしょう。

そして、生涯を捧げ守り続けられた榛名神社に関心を向けられる人々に幸福をもたらす神様となられたことでしょう。

また、神主家金子の家にとっては、一番近いご先祖様となられた、利根沼田の人々に幸福をもたらす神様となられたことでしょう。

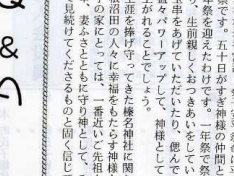
また、神主家金子の家にとっては、一番近いご先祖様となられた、利根沼田の人々に幸福をもたらす神様となられたことでしょう。

Q&A

Q家庭における神棒（しんばい）作法を教えて下さい

神棚は家族の住居を守護していただく神さまを御座所ですから、毎日のお祭り（日供祭：にっさい）を欠かさないようにします。毎朝、朝の一番に家の主人または代表者が、顔を洗い口をすすいで、神饌（しんせん・お供え物）・塩、それから水をお供えします。次に榊立て飯・上番茶を取り替え、神灯を灯しておきます。

お祭りでは、まず神饌をお供えしてから、日頃の神恩を感謝し、これからの家族の安泰と幸福を祈ります。また、家庭内の祝い事・誕生日・年祝いなどのあるときに報告します。

毎日の神棚の作法は、神社参拝の代表者だけではなく、家族の一人一人が欠かさないように心掛けて下さい。

神棚の作法は、神社参拝の作法と同様に二拝二拍一拝です。このとき神棚・榊拝詞を心をこめて奉上する場合共、奉上前に二拝二礼、奉上後に二拝二拍一拝をします。